

### 3-4 柴田 貴也

## 『 神河町からインドネシアにズームイン！ 』

学校名・名前 : 神河町立粟賀小学校 ・ 柴田 貴也  
実践教科 : 総合的な学習の時間、図工、道徳  
指導時数 : 7時間  
対象学年 : 小学3年生及び全校生      対象人数 : 350人

### 1. カリキュラム

#### (1) 実践の目的

インドネシアの人々の生活や文化(遊びや食物・服装など)を知ることから、インドネシアって一体どんな国なのか? 興味・関心を持たせていきたい。また、国や生活の様子は違って、一生懸命に夢や希望を持って頑張っているインドネシアの人々や子どもたちの様子にも目を向けさせていきたい。そして、JICA 兵庫の青年研修事業により、11月中旬に神河町を訪問される初等中等教育グループのインドネシア研修員の方々との交流を通して、インドネシアの文化にふれ、お互いを認め合っていくことの大切さを児童に考えさせたい。

#### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材・写真
1時限目(児童集会) インドネシアを知ろう	・インドネシアってどんな国? ・インドネシアで撮影した写真を見る。 ・感想を発表する。	世界地図 国旗 写真、楽器 民族衣装、教科書、 文房具、お菓子など
2時限目(総合) インドネシアの子どもたち	・学校の様子を知る。 ・子どもたちの夢は? ・好きな遊びは? ・感想を発表する。	写真 ビデオ
3時限目(道徳) ボランティアって どんなことをするの?	・青年海外協力隊やシニア海外ボランティアで、 頑張っておられる方々のお話を聞く。 ・自分たちにできることはないか考える。	写真 ビデオ
4時限目(図工) 交流プログラム 絵手紙で、自分の好きな 言葉を相手に伝えよう	・図工の時間、インドネシア研修員の方々にも一 緒に参加してもらい、自分の好きな言葉を 相手に伝えることをめあてに絵手紙を描く。	絵の具 筆ペン 紙皿 題材(野菜、果物)
5時限目 交流プログラム インドネシア方々と一緒に 遊ぼう	・折り紙や鬼ごっこ、キックベースなどの遊びを通 じてインドネシア研修員の方々とは触れあう。	折り紙

6時限目(総合) 交流プログラム インドネシアの伝統文化にふれよう	・校内学習発表会にインドネシア研修員の方にも特別ゲストとして参加してもらい、インドネシアの伝統舞踊や歌を教えてください。	
7時限目(総合) インドネシアの方々とのふれあいで感じたことを書こう	・インドネシア研修員の方々とのふれあいで感じたことを作文に書く。	原稿用紙

## 2. 授業の詳細

### 1時限目 「インドネシアを知ろう」

10月5日の児童集会において、「インドネシア物語」というテーマで全校生にインドネシアの紹介をした。自分自身が教師海外研修で、インドネシアという国の様子や習慣、文化について学んできたことを写真や実物を見せながら行った。

インドネシアの国の様子

Google Earthを使って、日本からインドネシアに目を向けさせ、国の面積や人口、気候など地理的な特徴を話した。

国の名前:インドネシア共和国

首都:ジャカルタ

面積:190万5000km<sup>2</sup>

人口:2億1500万人

言語:インドネシア語

宗教:イスラム教(90%)

気候:高温多湿の熱帯性気候で半年ごとに雨季と乾季がある。

年間平均気温は25 くらい。

日本との時差: - 2時間



簡単なあいさつと自己紹介

ほんの少しでも、インドネシアの言葉を覚えてもらえたらいいなという思いから、あいさつのおはよう、こんにちは、こんばんは、自己紹介の仕方、ありがとうの表現を紹介し、全員で練習した。すると、クラスの子どもたちは、次の日から朝学校に登校するなり、スラムッ パギ(おはよう)と言いながら教室に入ってくるようになった。子どもたちの興味関心の高さに驚かされた。

すぐに使える  
インドネシア語こうざ

<あいさつ>

おはよう→スラムッ パギ  
こんにちは→スラムッ シアン  
こんにちは→スラムッ ソレ  
こんばんは→スラムッ マラム

<じこしょうかい>

わたしの名前は、〇〇です。  
ナマ サヤ 〇〇  
<ありがとう>  
テレマカシ

## インドネシアのお金

インドネシアの紙幣である10万ルピアや5万ルピアを見せると、日本では見たことがない10の数の多さに子どもたちは、すごく驚いていた。10万ルピアというのが、日本円で約1300円位になることを説明し、いろんな品物の値段から日本よりも物価が安いことにも少し触れた。



## スーパーマーケット

スーパーマーケットには、日本でも売られているような品物がインドネシアでもたくさん売られていることに気付き、コーラやみかん、卵やヤクルトなどを写真の中から見つけ出していた。また、値段の安さにも驚いていた。



## 生き物の宝庫インドネシア

インドネシアは、生き物の楽園であり、何万種類にも及ぶ昆虫が生息している。カブトムシやチョウの写真を見せると、子どもたちは大変興味を持って見ていた。



## ボロブドゥール遺跡

わたしたちの住む兵庫県では、姫路城が世界遺産になっているように、インドネシアでは、ボロブドゥール遺跡が世界遺産になっていることを説明した。



## その他

インドネシアの国旗や楽器、民族衣装、教科書、文房具、お菓子などについても実物や写真を提示しながら、話をしていた。普段、テレビやニュース、新聞などの中で、インドネシアという国の名前は聞いたことがあっても、なかなかどんな国なのかイメージすることは難しい。しかし、自分自身の体験談から、インドネシアという国がどんな国なのかを少しは子どもたちに伝えることができたのではないかと考える。

## 2時限目 「インドネシアの子どもたち」

インドネシアの子どもたちが、学校でどんなことを勉強しているのか、家でどんな生活を送っているのか、どんな遊びをしているのかなどを自分たちの毎日の様子と比べながら話し合いをした。

【子どもたちの気づき】

- ・インドネシアでは、学校の始まる時刻が早く、7時から始まり、1,2年生は、10時頃に終わる。また、3年生以上は、12時頃に終わる。
- ・家に帰ると、自分たちは、友達と遊んだり、ゲームをしたり、習い事に行ったりしていることが多いが、インドネシアの子どもたちは、家の手伝いをたくさんしている。
- ・毎日、朝5時には起きて、イスラム教のお祈りをしている。
- ・学校でたくさんの教科を勉強している。国語と英語以外にジャワ語も習っている。
- ・学校で友達と楽しそうに遊んだり、勉強したりしている。
- ・いろいろな夢を持ってがんばっている。



～所感～

インドネシアの子どもたちの学校や家での様子を知ることから、自分たちと同じところや違うところをたくさん見つけることができた。日本と文化の違いはあっても、インドネシアでも自分たちと同じように勉強したり、友達と遊んだりしながら、一生懸命がんばっているんだなということを子どもたちも感じ、自分たちも負けずにがんばらないといけないなという強い気持ちを持つことができた。

## 3時限目 「ボランティアってどんなことをするの？」

インドネシアで起こったジャワ島中部地震では、たくさんの方が地震や津波の被害に遭われた。その方々を助けるために青年海外協力隊としてインドネシアに行き、現地でボランティアとしてがんばっておられる方々がいるという話をした。地震や津波の被害に遭われた方々にとっては心の支えであり、なくてはならない存在になっていることを伝え、どんなことをされているか仕事の内容についても簡単に説明した。その後、自分たちにも何かできることはないかを考えさせると、ユニセフ募金、赤い羽根共同募金、ベルマーク、使用済み切手を集めるなど、学校でこれまでしてきたような活動が子どもたちから出てきた。



## 4時限目 「交流プログラム 絵手紙で、自分の大好きな言葉を相手に伝えよう」

JICA 兵庫の青年研修事業により、11月8日から20日まで、初等中等教育グループのインドネシア研修員18名+通訳2名の方々が神河町を訪問され、11月13日、14日の2日間は、栗賀小学校にも来

校された。1・2年生のクラスへ各1名、3～6年生のクラスへ各2名の研修員の方々に来ていただいた。小学校の教育システムや自然学校、PTAと学校の関わりなどについて研修された後、それぞれのクラスで授業に参加された。休み時間になると、一緒に遊んだり、インドネシアのことをいろいろと教えてもらったりしながら楽しい交流ができた。

私のクラスには、英語教師のアンディさんと美術教師のヤユさんが来て下さり、交流プログラムでは、図工の時間に絵手紙を描くことにした。絵手紙を選んだ理由として、習字、絵、手紙の三つの要素が含まれており、筆や墨を使って字をかくことによって、かく人の気持ちを敏感に感じ取って表現することができ、また、絵手紙を通して、お互いの気持ちを伝えあうことができるのではないかと考えたからである。

絵手紙とは：絵のある手紙という意味で、自分が感じたことを感じたままに自由にかけばよい。

めあて：絵手紙で、自分の大好きな言葉を相手に伝えよう！

授業の流れ(日本絵手紙協会の絵手紙レッスン参照)

実物をよく見て大きくゆっくりと墨でりんかく線进行をかく。

リズムカルに手早く、絵の具で色をつける。

相手に話しかけるような軽い言葉を入れる。

できた絵手紙を紹介する。

アンディさんとヤユさんにインドネシア語で自分の名前を自己紹介してから絵手紙をプレゼントする。

ナマ サヤ

プレゼント フォー ユー

～所感～

一人一人が、思い思いの大好きな言葉を絵手紙に書くことができた。早くできた子どもたちは、アンディさんとヤユさんに自分の作品を見せに行ったり、自己紹介をしたりと有意義な交流ができた。事前に自己紹介の練習はしていたので、インドネシア語で自分の名前を言って通じたときには、とてもうれしそうだった。また、アンディさんとヤユさんも上手に絵手紙を描かれていた。



### 5時限目 「交流プログラム インドネシアの方々と一緒に遊ぼう」

業間休みや昼休みを利用して、折り紙や鬼ごっこ、なわとび、キックベースやサッカーなどのいろいろな遊びを通してインドネシアの方々とふれ合った。子どもたちの適応力は、すごく、業間休み、4時間目、給食と一緒にインドネシアの方々と過ごす中で、自然と相手を受け入れることができるようになっていた。昼休みになると、自分たちから積極的に遊びに誘っている姿が見られた。

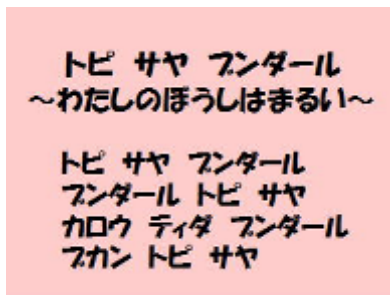


【子どもたちの感想(一部抜粋)】

- ・インドネシアの人といっぱい遊んだ。3年1組には、アンディさんとヤコさんが来てくれた。僕は、みんなでキックベースをして遊んだ。アンディさんは、ボールをけるのがとても上手だった。インドネシアの男の人は、サッカーが上手で、ボールをすごく遠くまでとばしていた。(Iさん)
- ・ぼくは、アンディさんと一緒にしたキックベースとてんつきがとても楽しかった。(Aさん)
- ・昼休みにアンディさんとキックベースをした。アンディさんは、ピッチャーで、僕がボールを転がす動作をするとOKって言って分かってくれた。(Oさん)

#### 6時限目 「交流プログラム インドネシアの伝統文化にふれよう」

11月14日の校内学習発表会では、一学期、二学期を通してこれまで学習してきたことを各学年ごとに歌や劇などいろいろな形にまとめ発表した。インドネシア研修員の方々も一緒に子どもたちの発表を見学された。そして、校内学習発表会の最後に特別ゲストとしてインドネシアの民族衣装を身にまとい、インドネシアに伝わる伝統舞踊やトピ サヤ ブンダール(わたしのぼうしはまるい)という歌を教えていただいた。子どもたちは、初めて見るインドネシアのきれいな民族衣装や伝統舞踊、歌にとっても感動していた。異国の文化にふれる貴重な体験ができた。



#### 7時限目 「インドネシアの方々とはふれあって感じたことを書こう」

JICA 兵庫の青年研修事業により、インドネシア研修員の方々とはふれあうことができた貴重な体験から子どもたちが感じたことや学んだことなどを一人一人が作文に書き、クラスの友達に発表した。

【子どもたちの感想(一部抜粋)】

- ・インドネシアの方々から言葉や住んでいる所などいろいろなことを教えてもらった。学習発表会の時の民族衣装は、すばらしかった。インドネシアに帰っても私たちのことを忘れないでほしい。また、インドネシアの子どもたちにも私たちのことを伝えてほしい。(Aさん)
- ・今日、インドネシアの人に初めて出会い、握手をしてもらった。一緒に写真を撮ったり、遊んだりして楽しかった。私の連絡帳にサインをしてもらって、とてもうれしかった。(Uさん)
- ・4時間目の図工の時間にアンディさんとヤコさんに絵手紙を描いた。テーマは、私の大好きな言葉で、アンディさんとヤコさんも一緒に描いた。二人とも絵がとても上手だった。(Kさん)

- ・校内学習発表会の後、インドネシアの先生全員が舞台の上に立って、民族衣装のことを教えてくれた。また、素晴らしい歌や踊りも見せてもらって心が温かくなった。インドネシアの先生と過ごした二日間は、本当にいい思い出になった。(Kさん)

### 3. 成果と課題

教師海外研修のインドネシア訪問で、自分自身が学んできたことを少しではあるが、子どもたちに伝えることができたように思う。11月には、JICA 兵庫の青年研修事業により、インドネシア研修員の方々とふれ合うことができ、貴重な体験をすることができた。「百聞は一見に如かず」という言葉があるように、体験談を聞くことだけで終わってしまうのではなく、子どもたちは、インドネシアの方々と一緒に勉強したり、遊んだり、インドネシアの文化にふれたりする中で、相手を受け入れ、異文化を理解していくことの大切さを一人一人が学んだように思う。

今後は、せっかく芽生えてきた異文化への興味・関心をこれからの学習にどのように生かしていくのか、また、つなげていくのかということが重要な課題になってくるように思う。